

第1回 高原地区街づくり協議会 議事録	
開催日時	平成26年11月6日(木) 10:00~12:20
開催場所	山田公民館 大会議室
出席委員	13名
欠席委員	山本委員、木村(勇)委員、菅野委員、岡田専門家委員
事務局	吉川市長公室次長、石原総合政策課長補佐、吉本主査、南主査、島田主事 (プロジェクトチーム)冬木教育総務課長
決定事項	(1)第2回会議までに各委員よりキーワードを提案していただく。 (2)キーワード等をプロジェクト項目として整理し、第2回会議にて提案する。
議事内容	
<p><b>1. 開 会 -10:30-</b></p> <p><b>2. 市長挨拶</b></p> <p>台風19号接近に伴う被害対応の可能性を考慮して本日に延期したこと、また、9月に行われた天理大学生による稲刈り体験につき、小西委員らのご協力にお礼申し上げます。</p> <p>10月31日に開催されたホテルグランハイアット東京にて、旅行社・雑誌関係者に対して奈良県観光プロモーションに参加した。道安宝珠喜(どうあんほおずき)を披露したが、大変興味を抱かれた。また、氷まつりや氷室神社の写真を見せたところ、そのストーリー性にも関心を持たれた。現在、全国でも地域の魅力を発信しているところとそうではないところがある。高原地区は、里山の風情があり、自然の豊かさを味わえることに加え、交通アクセスは県南和地域より優れている。一方で、企業誘致による大量雇用創出も努力するものの困難ではないかとも考えている。</p> <p>10月中旬に県と市のまちづくりに関する包括協定を締結し、資料P5・にぎわい循環MAPにあるように当街づくり協議会も含まれている。この場を発信できる協議会としていきたい。</p> <p><b>3. 委嘱状の交付</b></p> <p>委員紹介後、委員を代表して東委員に委嘱状を交付した。</p> <p>高原地区街づくり協議会設置要綱に基づき、市長が会長となり、また、副会長には山中委員が選任された。</p> <p><b>4. 協議会の位置づけ・公開について</b></p> <p>資料P2-3及びP4に基づき説明した。</p> <p><b>5. 議 事</b></p> <p>資料P8スケジュール案を提示し、今後の展開として、短期・中長期として整理しながら進</p>	

めていき、来年度予算につなげていきたい。本会議はキーワード抽出となる。高原地区ならではの魅力につなげていきたい。

また、Iターン・Uターン者等も考慮し、中と外の視点をつなげることがポイントと考える。

資料P7はキーワード抽出となるたたき台として整理したものであり、これらに捉えられることはない。まずは、資料提出を頂きました2名の委員よりご説明願いたい。

**委員** ※同委員より資料提案あり。

本日は、根底にある問題を共通理解していただきたい。

委員提案5「福住校区における子育て家族の現状調査」にあたり、子育て家族を①末子未就学児、②末子小学生、③末子中学生、④末子高校生に分類・定義づけた。

調査結果として、家族構成は、別居家族が3割弱で居住、同居子育て家族は2割弱となっている。末子小学生以下①・②は5割しかいない状況である。

子育てがしやすい・魅力ある地域であると理解されて定着していただきたい。歴史・文化資産もあり、交通アクセスも良い場所であるにも関わらず、子どもが高校に進学する際には転居しないとイケない状況に着目してもらいたい。

結婚年齢・出産年齢が遅くなり後継ぎもいなくなることで空き家が増えることになる。神戸大学大学院教授・平山洋介著「住まいを再生する」における空き家の種類(二次的住宅、賃貸用住宅、売却用住宅、その他の住宅)によれば、福住校区では「その他の住宅」が増加する予測と考える。

委員提案7以下「福住校区の子育て世代の母親の意識調査」では、51名のお母さんを対象に48名より回答を得た。調査結果として、日中の子育ての中心は、自分(母親)35名、同居の父母・義父母12名、子育ての協力者に45名がいると答えられた。学童保育の希望につき、市・学校等に申し出た方は15名、申し出していない方35名と後者が多かった。学童は制約が多いなか、学童スタイルに捉われない『放課後子どもふれあいスペース』設置につき、必要36名・考えたことがない11名、不要1名となった。なお、不要1名は、祖父母が面倒をみている方であった。必要とする理由は、近くに遊ぶ子どもがいない22名、子育ての協力者に対し迷惑をかける等遠慮する気持ちがある16名、子どもだけで留守番をさせている時がある14名などとなった。設置実現時の利用頻度は、不定期(随時)13名、週3回13回、平日毎日9名などの希望となった。福住校区で子育て世代が住みやすい街について、誰でも遊べる公園のような安全な場所が欲しい、子どもが手軽に友達と遊べる環境がほしいなどの意見が挙げられた。

調査結果を考察した結果、母親は専業主婦が40%を占めており、続いてパート・アルバイトが37%で、フルタイムの仕事をする人は15%と少ない。日中の子育て中心は66%が母親と答えており、専業主婦やパート・アルバイトの母親が子どもふれあいスペース設置を必要としている割合が多く、ふれあいスペース設置と子育て充実との関連意識も高いことが伺える。不要と考える母親は放課後に関しては1名あったが、長期休暇中の設置を不要とする母親はいない。

4・5歳の幼児～小学生をもつ母親の子どもふれあいスペース必要意識は高く、2・3歳幼児

をもつ母親は必要群と考えたことがない群が半々の状況。0～1歳の乳児の母親は子どもふれあいスペース設置を考えたことがない群の割合が高い。考えたことがない群11名の中で設置が実現したら、不定期に利用希望される方が7名おられる状況。子どもふれあいスペースを必要とする理由が「近くに遊ぶ子どもがいない」「子育て協力者に対する遠慮」「子どもだけの留守番」等を挙げている。自由記載からも放課後や長期休暇中遊具のある公園で友達同士遊ばせてあげたいとする母親の気持ちが伺える。また、専業主婦やパート・アルバイトなどの割合が多いが、安心して仕事をしたい気持ちや職に就きたい等社会的進出を望む女性の気持ちも伺える。

幼稚園を単独で借りたい場合には、市よりすべての管理・運営をすることが求められている。そのため、NPO法人等に幼稚園を借りて頂いたうえで、施設の一部をふれあいスペースとして借りるスタイルとできればいいと考える。

### 委員

子どもを育てられる環境にないことが流出につながっていることは否定できない。結果的に現役世代だけで支え合うのではなく、多世代で支え合うコミュニティも限界にきているとも思われる。学校についても人数が少ない、友達と遊べる機会が少ないといった問題がある。委員のご提案としては、幼稚園を拠点に地域のみなさんも子育て世代も利用できる形にしたいということでしょう。

### 委員

学童保育は、他の地区にはないのか。

### 委員

調査した結果、近隣の奈良市都祁・田原地区にも存在するなか、市内は福住校区のみない状況である。

### 委員

このような機会に柔軟に考えていければよいと思う。学童保育の必要な機能としては、放課後に安心して預けられる場所が確保されているかどうか等重要なところ、山田町・長滝町からは遠いという課題はあるものの、まずは実行することが大事かなと考える。

他の委員より提案があると伺っているため、そちらを発言願いたい。

委員 ※委員欠席のため、事務局より代弁する。

当該提案は、昨年に福住郷土活性化プロジェクト協議会から市へ提案されたものであり、本協議会のたたき台として9つの展開を提案する。

①「福住郷土活性化プロジェクト協議会」の拠点、福住地域活性化に関わる発信基地、およ

び防災基地に ②地域住民の交流サロンに ③芸術・文化の活動、アートイベントの拠点に ④園芸用（菜園・花園、花苗）に ⑤ビオトープ造りに ⑥体験学習の拠点に ⑦加工食品の開発研究（ブランド化）に ⑧郷土の生活様式、郷土の自然環境展示館に ⑨地域産の食材、手作り細工品、郷土食、創作料理などの販売に である。

## 委員

地域活性化の視点ですね。幼稚園カフェの際に、園庭の草刈りをされたことを踏まえると、常時維持管理する人を確保することは難しいのが現状と考える。法人で維持管理してくれる、地域のお子さんが自由に来られる、地域のみなさんのためにも使っていただける、ある程度恒常的に運営していただける法人がいたうえで、広さを活かした展開がいいかなと思う。

運用の仕方もあるが具体的に進めていければよい。子どもが育てられない環境ならばIターン・Uターン施策も進まない。また、高校進学等に生じるギャップ解決に向けた提案も考えていきたいし、他の委員のみなさまからもご提案いただきたい。クラブ活動後に帰宅する場合の交通手段の確保や、帰宅するまでの勉強する場所などを駅前で提供するといった方法も考えられる。

## 委員

（9月に行われた稲刈り体験の感想を学生委員より聞いたうえで）今後もしたいかといえば別の話になるだろう。例えば、耕作放棄地が存在するという情報はあ、体力もあるが、苗植えの経験もない者がすぐ放棄地を与えられてできるかといえばどうだろうか。やはり、つないでいく人が必要で、コミュニティとして受け入れる雰囲気になるかどうかのハードルを越えられるかどうか。

## 委員

空き家の活用と展開が重要であり、地域でセミナーを行っている。例えば、美容店は月曜日が定休日となるため、同日に空き家で美容を行う。その他の曜日は保健室やコミュニティカフェなどになればよい。また、サテライトオフィスへの活用もありうる。近辺に迷惑がかからないミシン加工の事例もある。高原地区を広くとらえ都祁と連携することもありうる。

明日香村では農家民泊を展開し、修学旅行生を受け入れている。空き家も良い形で進められればよい。稲刈り体験も農業体験として広く応募すれば集客できるのではないか。

観月祭や氷まつりなどの魅力的なスポットをふるさと納税（の特産品・記念品）にしてほっとさせる体験を対価に換えられればよい。生活する糧になるものが必要で農業がそれならばよい。柚で商品販売できなくなったものを加工してジャムとして売ることもある。産業につなげて経済効果が出てくれば、IターンUターンが生まれてくる。

## 委員

やはり議論だけをしても進まないとも感じるので、みなさんの同意が得られれば費用を発生させたうえでの発信できるような具体例をつくりあげていきたい。空き家の定義が難しく、普段住んでいないが甥が管理しているといった例もあるなか、地域のみなさんのお力を借りて体験・レポート発信できる方を見つきたい。そのような人を見つける、やらせてみる、発信させてみることにしたい。そこから裾野を広げていきたい。発信者を二地域居住となる都市部住民、大学生、留学生となるかは提供する物件によると思われる。ぜひ、空き家や利用できる田畑を教えていただきたい。なお、過分なおもてなしではなく、自然体で持続可能なおもてなしを基本としたい。なお、発信する点につき、岡山県西栗倉村が先進地として有名であるが、事務局職員で訪問した者がいるので少しお話を聞きたい。

## 事務局

9月中旬に向学のため、西栗倉村を訪れ、(特に地域活性化の先進事例として報道に取り上げられる)「森の学校」を見学した。廃校を利用して地域資源を活用した商品販売などを行っている。ホームページ上の魅せ方が優れており、若い世代に注目されている。見学当日も、若い女性ら3名が訪れていた。※委員に対して実際の販売商品(柚、割りばし)を回覧する。

## 委員

ちょっとしたデザインや工夫による魅せ方により、足を運ぶ方がいることは事実。この高原地区においても、どこに持っていっても勝負できるプロジェクトを推進したい。また、(森の学校と比較しても)本会議場所である木造校舎・山田公民館は素晴らしい資産と感じているなか、公民館活動も大切にしながら、生涯学習の視点のみだけでなく新たな拠点として使えるようになればありがたい。木造校舎を利用した事例も近畿地方だけでいくつか見受けられるなか、新しい機能も加えられればよいと思う。校区外の方の利用もあれば、裾野が広がると考えている。また、(前校区を引き合いに出し)、高齢者世代・地域ぐるみによる子育ての関わりをすすめたい。場所については、こども園や公民館などを想定している。

被災地で活躍している冒険家で、スカイプを用いて小学生と交流を図る事業がある。小学生は自ら調べ、自らのことばで語る。福住小学校で試行したいと考えている(設備はパソコン1台と附属カメラのみ)。他にも、地域の絆づくりや生涯学習の視点で氷まつりを行っていること認識しているが、観光に来られたとしても何か購入につながるかといえばそうではないと思う。

2回目の会議までに事務局に提案していただければプロジェクト項目に追加したい。

## 委員

高齢者が増加するなか、ふるさと納税(の記念品・特産品)として、小学生を話し相手等とする交

流を図る(ことを提供する)ならば、週1回納税者に電話をかけるなどにより子どもらによる地域行事(観月祭など)の紹介・呼び込みにもなる。また、地域でいろいろなことをする展開になれば、「ダッシュ村福住プロジェクト」のように記憶されやすいネーミングを考えることもよい。

旧福住幼稚園に学童保育機能をつけるとすれば、小学校授業終了後から幼稚園に向かう移動時間を考慮すれば、(逆転の発想で)幼稚園自体を福住小学校の敷地の一部へ移設することも考えられる。移設費用も幼稚園の土地を売却することで捻出できるかもしれない。

## 委員

(教育面となるが)水の流れなどの自然を教材にできる環境にある。また、不思議だなと考える視点が柔軟な思考を育み、教育レベルの高い地域にもなる。高齢者に目を向ければ、社会参加していない率が高いと思われるなか、山田運動会での子どもらの姿をみるために外出された。見ているだけで楽しいと感じる。本当の介護予防にもなると感じた。子どもとお年寄りの交流・サポートといえば、小学校のふれあう時間のなかで子どもに折り紙を教えることがあったが、折り方を忘れていた方も再度練習して望まれた。子どもは教えてもらい、お年寄りも子どもと接することで元気になる。子どもらの力はすごい、その母親の方々の環境を第一優先に考えながら、魅力あるところを活かし、誰にでも優しい・協力しあえる(全国に誇れる)まちにしたい。そのために地域のみなさんにも御協力いただきたい。

※委員より、古着を使用した作品、竹炭、ハーブ等を持参・展示された。

## 委員

ふるさと納税につき、全市的に考えたい案件であるなか、福住を活かしたものを対応できるか考えていきたい。

介護予防の観点からも、気軽に行ける場所があることが大事と理解するが、毎週お稽古に出掛ける方もいれば、子どもがいる場合にだけ出向く方もいる等の差はあるが、裾野を広げる意味で旧福住幼稚園や山田公民館を利用できればいいと思う。学童保育機能を得るため、子どもを移動させないといけない点は障壁だと感じており、全市的に学校校舎を学童保育に活用するよう進めている。他方、旧幼稚園の売却は困難でしょう。市街化調整区域となるため用途廃止手続きが必要であり、インターチェンジ付近といえども企業が選択する状況かといえば困難かなと思う。そのようななか、幼稚園を地域のためにも活用したいと申し入れる法人もあり、企画を公募、その選定委員もこの協議会委員より参加してもらったうえで、地域のために利用してくれる団体に貸す形が一番良いかなど考える。施設の維持・管理をしつつも地域に開かれた施設となるには民間の力もお借りしたく、今後詰めていきたい。

また、産業になれば、5反以上の田畑があれば商売になると聞いたことがある。

## 委員

空き屋の心当たりはあるが、上下水道の整備や物件年数も考えるとイニシャルコストを抑えられる物件は難しいかなと思う。

## 委員

この地域で裾野が広がっていけば、その後の投資もありうるかなと思うが、まずは、寝られる状態までの管理程度は整っている家が一番良いかな。

(本日のまとめ)

## 会長

本日も発言いただいたキーワードと協議いただいた内容を、事務局でより具体的なプロジェクト項目にして整理させていただき、第2回目に提示したい。また、例えば、空き家はココにある、「〇〇さんの△△(資源・技術)は使えるよ」といった情報をお教えいただきたい。

## 6. 次回の日程と主な協議内容

次回・第2回会議は、12月初旬に市役所4階特別会議室にて開催することを伝えた。

## 7 閉会 -12:20-

以上